

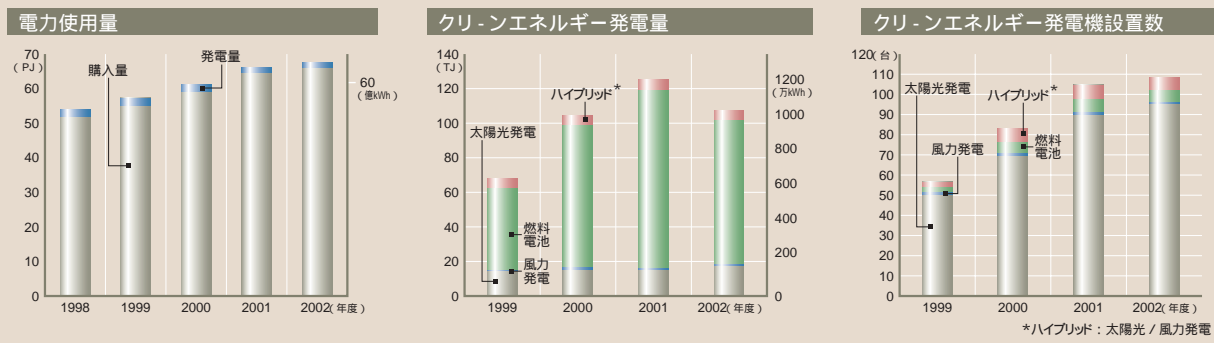
Q8 地球温暖化防止に貢献するために、どのような施策を展開しているのですか？



A1 電力エネルギーの削減に NTTグループが一丸となって、TPR運動に取り組んでいます。

IT化に伴う情報流通社会の進展により、NTTグループの電力消費量は、2010年に100億kWh以上に達すると予想されます。その対策として「2010年に向けた電力消費量の削減ビジョン」を策定し、トータルパワー改革(TPR)運動を1998年より行なっています。TPR運動では、全国のビル約4千棟におけるエネルギーマネジメントの推進のほか、サーバ・ルータなどのブロードバンド関連装置への直流給電化による低消費電力の推進、太陽光発電システム、風力発

電システムなどのクリーンエネルギーによる電力自給率の向上に取り組んでいます。また、電力事業法改正(特別高圧需要家への小売自由化)に伴うNTTグループの電力小売事業を積極的に活用するとともに、燃料電池を利用したコジェネレーションシステムなどの開発・導入に取り組んでいます。これらの取組みにより、5年間で約11.8億kWhの電力消費量を削減することができ、CO₂排出量を約45万トン削減しました。



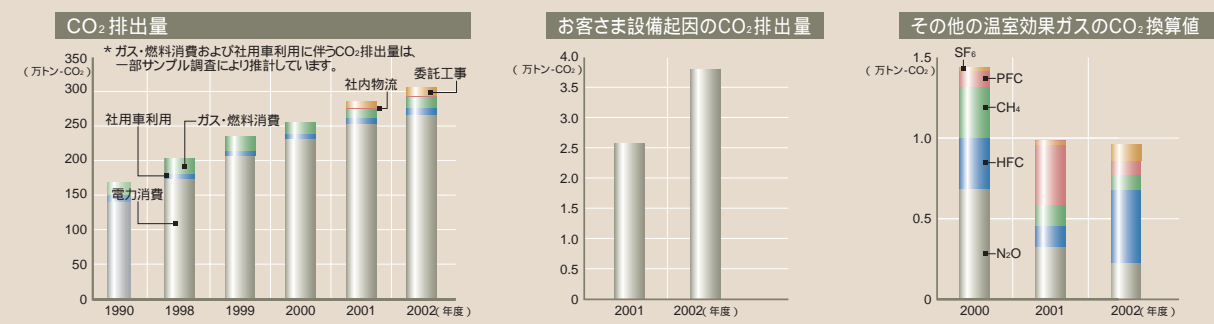
A2 温室効果ガスの算定基準を、グローバルスタンダードに合わせて厳密化しました。



仁井田 恵
温室効果ガス削減委員会
[NTTジーピー・エコ(株)]

温室効果ガスの算定基準をグローバルスタンダードに合わせ、精度を向上するために、改正地球温暖化対策推進法施行令とGHG(Green-House Gases)プロトコルなどを参考にして、温室効果ガス算定マニュアルを改訂しました。このマニュアルを温室効果ガス算定システムに反映しました。

2002年度のCO₂排出データは、このシステムを用いて集計しています。CO₂以外の温室効果ガスについては、低公害車の導入などにより低減していますが、CO₂は経営ステージで説明しましたように、ブロードバンドサービスの進展や携帯電話の普及により増加している状況です。



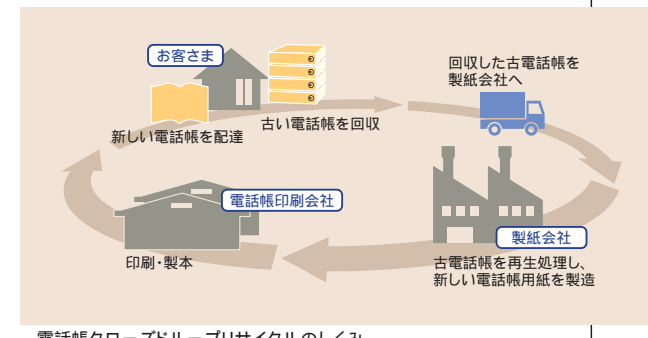
Q9 使い終わった電話帳や携帯電話機は、その後どうなるのですか？



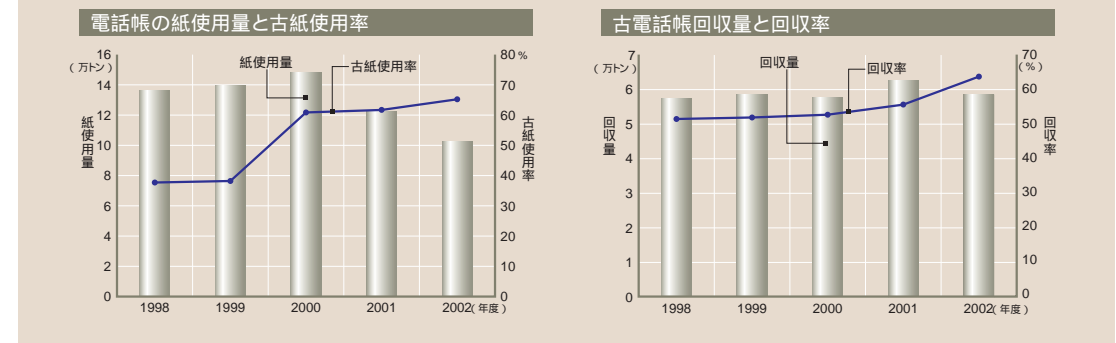
A1 古い電話帳を新しい電話帳にリサイクルする「クローズドループリサイクル」に取り組んでいます。

電話帳は、NTT東日本・NTT西日本を合わせて年間約1億2,000万部が発行され、その紙使用量は国内全体で使用される紙全体のほぼ0.3%にあたる約10万トンにのぼります(2002年度実績)。これだけ多くの紙資源を使用する電話帳だからこそ、古い電話帳を使用して、新しい電話帳用紙に再生するクローズドループ(循環型)リサイクルシステムを構築しました。回収された電話帳は製紙会社で電話帳用紙に再生され、印刷・製本を経て新しい電話帳に再生されます。このしくみで作られた電話帳は、2001年9月発行版からお客さまにお届けしています。このリサイクルを進めるうえで必要不可欠となるのが、

原材料となる古電話帳の回収拡大です。新しい電話帳をお届けする際、利用期間が過ぎた電話帳の回収を徹底し、古電話帳の回収量拡大に努めています。



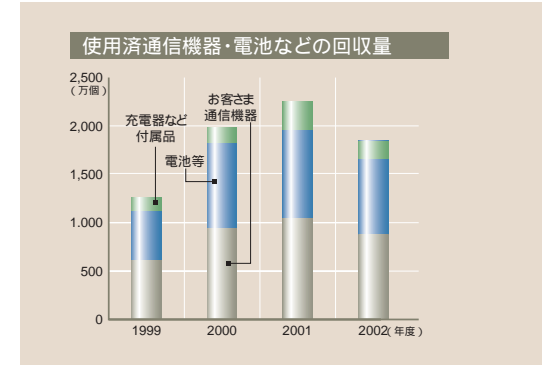
山口 嘉彦
NTT番号情報(株)
ペーパーメディア事業部



A2 企業責任として、携帯電話機などの回収に積極的に取り組み、再資源化率100%を今後も継続します。

NTTドコモは、環境保全活動の最重要課題のひとつとして、使用済みとなった携帯・自動車電話やPHS本体、および電池・充電器など、全商品の回収に取り組んでいます。2001年4月からは国内の携帯電話・PHS事業者と共同で「モバイル・リサイクル・ネットワーク」を形成し、自社・他社製品を問わず回収を行なっています。2002年度には、お客さまのご協力のもと、ドコモグループで本体約900万台、電池約760万個、充電器など付属品約200万個を回収することができました。回収された携帯電話機などはドコモで分別し、非鉄金属メーカーにおいて適正な処理が施され、金やパラジウムをはじめとする希少金属を資源として回収するなど、100%リサイクルしています。

このほか、NTT西日本が2002年5月に、通信回線用メタルケーブルのリサイクル体制を確立し、現在は全国で実施しています。2002年度はポリエチレン使用量を年間970トン(重油換算でドラム缶16,900本分)削減しました。



吉田 忠典
ドコモ・モバイル(株)
物流部